

＜第三分野商品の特徴＞

- 医療政策等の外的要因や当初の想定を超えた契約者の行動の影響を受けやすい。
- わが国では終身保障タイプが主流。このため、保障期間は長期にわたる。

商品に長期的な不確実性が内在

＜現状と問題点＞

- 標準責任準備金の積立⇒使用する入院率等の発生率は各社の判断
- 危険準備金の積立 ⇒一律・機械的にリスクを計算
- 発生率の事後的な検証⇒検証方法や検証後の対応は各社の判断

この適切性やあるべき姿についての議論が十分でない。

適切なリスク管理の方法や責任準備金積立ルールを議論し、定めることが必要。

＜基本的考え方＞

- 将来的には、発生率のスタンダード化を視野に入れた検討が必要。
⇒ まず、第三分野に関するデータ整備を進めることが必要。
- したがって、当面は、

保険会社において、

- ① 適時・的確な事後検証等による保険料積立金の必要な積立額の確保
- ② ストレステストによる危険準備金の十分な積立水準の確認
- ③ ①及び②の実施状況等の開示

監督当局において、

- ④ 定期的なオフサイトモニタリングの実施

等の施策を厳格に行うことによって対応。(注)

保険会社の財務の健全性の確保 ⇒ より確実な契約者保護

(注) このほか、保険会社はリスク管理態勢の充実や保険計理人の機能強化を着実に図っていくとともに、想定外の事態に対し、契約者が不利益とならない範囲で契約内容の見直しが可能な仕組みの導入についても検討が必要。